



Rainbow letter

2022.8

No. 30

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

次回学術集会・大会長ご挨拶

第18回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会を10月22・23日にオンラインで開催します。メインテーマは、「昔にまなび未来につなぐ母性のちから～今、日本の母を支える～」です。

コロナ禍で周産期を過ごす人々のメンタル不調が懸念される中、子どもを産み育てる女性や家族に関する専門家が持っている知識や経験を持ち寄り、周産期メンタルヘルスケアの新たな方向を模索し実行に移す時期にきているように思います。本学術集会は、日本人の子産み・子育ての中で脈々と受け継がれてきた母性の本質を紐解き、昔から大事にしてきた母性のちからを共有し、今の時代にも通じるものは何か、新たな課題は何か、専門家は現代の母をどう支えればいいのかを考える機会にしたいと思います。

招聘講演では、鈴木七美教授（国立民族学博物館グローバル現象研究部）をお招きして出産の歴史人類学からみえてきた「母性のちから」についてご講演をいただきます。

特別講演では、安藤智子教授（筑波大学大学院 人間総合科学学術院）に育児支援に活かすアタッチメント理論についてご講演をいただきます。

会長講演では、「母性を支える看護のちから」をテーマに周産期メンタルヘルスに関わる看護の役割について考えたいと思います。

また、父性のちから、家族のちから、発達障害をもつ女性の育児支援をテーマとする3つのシンポジウムと母子のための地域包括ケアシステムの推進を考えるワークショップ、医師や看護職、臨床心理士等の多職種に役立つ教育セミナーを企画しました。さらに、本学術集会では、「知って！使って！ママがこころを元気にするコツ」をテーマに市民公開シンポジウムを行います。

本学術集会では、ニューノーマル時代の周産期メンタルヘルスケアの新たな知恵や対策を創り出す機会となることを願って充実したプログラムを準備しました。関連学会の単位申請にも対応しております。多くの会員の皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

（大会長・顧問/常盤洋子/新潟県立看護大学看護学部・大学院教授、群馬大学名誉教授）

**昔にまなび、未来につなぐ 母性のちから
～今、日本の母を支える～**

会場 **オンライン**
(ライブ+オンデマンド)

大会長 **常盤 洋子**
新潟県立看護大学看護学部・大学院教授 (母性看護学・助産学)、群馬大学名誉教授

オンデマンド配信 2022年11月1日(火)～12月1日(木)

事前参加申込期間 2022年 6月1日(水)～9月20日(火)

群馬県のマスコット「くんまちゃん」
2021-100335

学術集会・シンポジウム参加報告

第118回日本精神神経学会学術集会

2022年6月16日～18日の3日間、福岡にて第118回日本精神神経学会学術集会が開催された。コロナ禍となつてから、学会はずっとオンライン参加であったため、筆者にとって約3年ぶりの現地参加となった。本学会にて筆者が関わったシンポジウムは3つ。いずれも周産期メンタルヘルスに関連しており、1つ目は電気けいれん療法(ECT)に関するもので、筆者が「妊産婦とECT」について発表した。2つ目はコロナ禍での事象を通してわが国の母親・女性の立場を考えるもので、筆者は「コロナ禍での周産期メンタルヘルス」について発表した。

3つ目がメインとなるシンポジウム、「いま周産期メンタルヘルスで注目されていることを考える」のテーマのもと、5人のシンポジストにご登壇いただいた。「総合病院でできる多職種連携」について、横浜市東部病院の辻野先生には精神科医の視点から、昨年の日本周産期メンタルヘルス学会の岡野賞に輝いた滋賀医科大学産婦人科の辻先生には産婦人科医の視点から、それぞれご講演いただいた。続いて、筑波大学精神科の根本先生には「精神科医に求められるプレコンセプションケア」、木村病院の渡邊先生には「周産期メンタルヘルス学会コンセンサスガイド2022の注目点と活用事例」、独協医大精神科の徳満先生には「国内における男女の周産期うつ病の有病割合－国内初のメタ解析結果から－」について、いままさに周産期メンタルヘルスの分野で注目されている内容について熱く語っていただいた。最終日の午後にも関わらず多くの現地参加の方に加え、オンラインでは200名近くの聴講者もおり、この領域の啓発につながるものになったことは間違いのないと考えている。

(理事/竹内崇/東京医科歯科大学病院精神科准教授)

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。